

令和6年度 「犬山市の子どもたち」

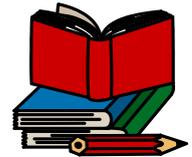
令和6年4月18日に「全国学力・学習状況調査」が行われました。

対象学年は、本年度の小学校6年生と中学校3年生です。調査対象は、小学校6年生の国語・算数、中学校3年生の国語・数学です。また、質問紙による学習状況や生活の様子についても調査が行われました。この調査から見えてきた、犬山の子どもたちの状況をお知らせします。各学校においては、それぞれ本校で調査結果を分析し、個人票と合わせて保護者にお知らせしています。

1 犬山市全体の正答率と全国平均との比較

学年	国語	算数
小学校6年生	全国並み	すいぶん高い

学年	国語	数学
中学校3年生	やや高い	すいぶん高い



2 学習指導要領の領域等

学年	国語	算数・数学
小6年	・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・情報の扱い方に関する事項 ・我が国の言語文化に関する事項 ・話すこと・聞くこと ・書くこと ・読むこと	・数と計算 ・図形 ・測定 ・変化と関係 ・データの活用
中3年	・言葉の特徴や使い方に関する事項 ・情報の扱い方に関する事項 ・我が国の言語文化に関する事項 ・話すこと・聞くこと ・書くこと ・読むこと	・数と式 ・図形 ・関数 ・データの活用

3 学習に関する傾向

小学校6年生

【国語】

○「書くこと、読むこと」の領域において全国平均を上回っています。

●「話すこと・聞くこと」の領域において全国平均より下回っています。

「書くこと」は全国平均を上回っていますが、例年と同様に正答率が低く、犬山の子どもたちの苦手意識が感じられます。無解答も約13%あり、問題に手を付けず、取り組んでいない様子が伺えます。

・目的や意図に応じて伝えたいことを明確に書き表したり、自分の考えをまとめて書いたりする経験を増やし、思考を文章にして表現する力を身に付けていく必要があります。

・話し合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えを書く問題の正答率が低いことから、話題の意図を的確に捉え、他者の発言と自分の考えを結びつけていく力を身に付けていく必要があります。

【算数】

○全ての領域で正答率が全国平均を上回る結果となっています。

●「測定」の領域の速さの学習では、全国・愛知・犬山市において正答率が低い様子(約30%)が見られました。

・複数の観点で、事象を比較し、理由を言葉や数を用いて記述することができていません。知識・技能の活用だけでなく、思考し課題解決する力、思考を文章で表現する力が必要になるため、複合的な力を身に付けていく必要があります。

中学校3年生

【国語】

○すべての領域で全国平均とほぼ同じ結果となっています。

「話すこと・聞くこと・書くこと」の領域では目的や意図の応じて伝えたいことを明確にすること、事実と感想、意見とを区別して書くことがよくできていました。

●漢字を使って書き直す問題では正答率が約40%の問題も見られました。

・学年別漢字配当表に示されている漢字をただ覚えるだけでなく、熟語の意味を正しく理解し活用する力を付けていく必要があります。

【数学】

○すべての領域において全国平均を上回る結果となっています。

●思考力・判断力・表現力を問われる問題では、全国・愛知・犬山ともに正答率が20%台、無解答の割合が30%を超える問題もあり、生徒の苦手意識が見られました。

・事象を数学的に解釈し説明したり、筋道を立てて証明したりする力が求められています。小学校の算数と同様に、習得した知識・技能を活用し、論理的思考力や表現力を伸ばしていくことが大切になります。

4 学習状況や生活の様子について（○は全国平均を上回り、●は全国平均を下回る項目です）

小学校6年生

- 新聞を読んでいる ○幸せな気持ちになることが多い ○英語の勉強が好き
○学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている
●携帯電話やスマートフォンの使い方について家の人との約束を守っている
●将来の夢や目標を持っている ●困ったときや不安な時に大人にいつでも相談できる

中学校3年生

- 朝食を毎日食べている ○学校に行くのが楽しい ○友達関係に満足している
●毎日、同時刻に就寝・起床している ●将来の夢や目標を持っている
●自分で学び方を考え、工夫している ●困ったときや不安な時に大人にいつでも相談できる
●自分と違う意見について考えるのは楽しい

5 ICT機器活用について

【携帯電話やスマートフォンの使い方について】

- 「家の人との約束を守っている」と答えた子どもは小学校で全体の約70%、中学校で約60%見られました
●「約束がない」と答えたのが小学校で約10%、中学校で約15%見られました。

【ICT機器の利用時間について】

- 「1日4時間以上ゲームで使用している」と答えた子どもが小学校・中学校の両方で約19%見られました。
●「1日4時間以上SNSや動画視聴している」と答えた子どもが中学校で約22%見られました。

情報モラル教育は現在、学校でも発達段階に合わせて指導をしたり、関係機関と連携して啓発活動を行ったりしています。しかし、学校の教育だけでは追いつかない状態になっています。家庭でのルール作りをしてもらう、見守り体制を構築してもらうことも学校より再発信していきたいと考えています。

6 質問紙調査から分かる、これから各学校で力を入れたいこと

- ・達成感や自信をもち、自己有用感を高めるような授業展開や教師の働きかけの充実
- ・先生や大人に相談することへの抵抗感が減るような人間関係の構築
- ・課題解決に向けて筋道を立てて考える、自分の考えを整理して表現する取組
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度を高め、子どもが主体的に取り組む授業の充実
- ・基本的な知識・技能の定着を図りつつ、仲間と協働・対話しながら課題解決する授業の充実

【犬山市における今後の取組】

- 読解力向上プログラムに基づいて図書館活用を促進し、すすんで読書に親しむ子どもの育成を図ります。
- 自己有用感を高めるような授業展開や教師の働きかけを充実させ、豊かな人間関係の構築を図ります。
- 学ぶ楽しさ、分かる喜びを味わうことのできる子どもの育成を図ります。
- 学習において文章や言葉にこだわって問題を読み解く力、自分の考えを表現する力、相手の考えを読み取る力など、読解力の育成を図ります。
- 一人一台のタブレット端末を活用した授業の中で、個別最適で協働的な学習を進めます。また、ICT機器の効果的な活用方法について校内研修を行います。
- 自ら課題を発見し、自分の考えや仲間の考えをもとに、課題に対する最適解を作り出す学習を繰り返し行い、主体的に取り組む姿勢や仲間と協力する協働性を育みます。また、自分で計画を立てて学習に取り組める子どもの育成を図ります。

〈 担当 〉犬山市教育委員会 学校教育課

〈 電話 〉0568(44)0350

〈電子メール〉070200@city.inuyama.lg.jp